

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会（第25期・第9回）
議事要旨

日時： 令和5年1月21日（日）17:00～18:00

会場： オンライン（Zoom）

出席：（分科会委員9名）春日文字、窪川かおる、鈴木康弘、日置光久、氷見山幸夫、山形俊男、小田宏信、小林亮、丹羽淑博

（オブザーバー）

（ESD/SDGsカリキュラム小委員会委員2名）新井雅晶、鈴木克徳

資料：

資料1：持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会委員名簿

資料2：ESD/SDGsカリキュラム小委員会委員名簿

資料3：海の学びカリキュラム小委員会委員名簿

資料4：学術フォーラム企画案募集（令和5年7～9月開催予定分）について

議題

- 1) 公開オンラインワークショップ「持続可能な社会の創り手を育てる学び～SDGsの達成に資するカリキュラムの開発に向けて～」（1月21日13:00～17:00開催）について
 - ・同日午後開催したワークショップの感想などについて、以下のような意見交換を行った。
 - ・小・中・高校、大学、社会教育と各教育段階から多岐にわたる実践発表があり多くの学びが得られた。
 - ・時間がタイトだったので午前・午後と合わせた1日開催でもよかった。
 - ・次のステップとして、教育、学術、行政、企業など異なるセクター間の対話・意見交換があるとよい。
 - ・児童・生徒・学生が参加する機会も設けられるとよい。
 - ・大学の専門教育の中でSDGs的観点を取り入れた実践発表もあるとよい。
 - ・オンライン教育の発展と可能性を強く感じた。これからの課題として、初等中等教育でオンライン教育をどう推進するか、その中でバーチャルとリアルをどのように融合させるかがある。
 - ・SDGs教育のカリキュラム開発について、特に小・中・高・大学と各学校段階のカリキュラムをどう接続させていくかが課題である。

2) 学術フォーラムの申請について

- ・今回のオンラインワークショップの内容をベースに、学術フォーラムを起案することを決めた。学術フォーラム企画申請書（資料4）の取りまとめと提出は委員長に一任する。
- ・学術フォーラムは学術会議講堂における対面とオンラインのハイブリッド形式で開催する。
- ・学術フォーラムの開催日を2023年8月20日(日)に決め、学術会議講堂・会議室の予約を行った。

3) 次回の分科会について

- ・学術フォーラムの打ち合わせ等のために次回の分科会を3月22日(水)15時～17時に開催することにした。
- ・次回の分科会の前に、ESD/SDGsカリキュラム小委員会(3月12日(日)開催予定)と海の学びカリキュラム小委員会(要日程調整)を開催することにした。

4) 分科会に関する国際的・国内的動向

- ・氷見山委員より、ISC(国際学術会議)において傘下のGeoUnions(地球科学系学術連合体)の提案により開催されるオンライン連続講義”ISC Distinguished Lecture Series: Basic Sciences for Sustainable Development”の紹介があった。2月21日に第1回目の講義がIGU(国際地理学連合)のSimon Dalby氏(Wilfrid Laurier University 大学教授)により行われ、以後1ヶ月に1回のペースで開催される。
- ・小林委員より、ユネスコ「国際理解、国際協力及び国際平和のための教育並びに人権及び基本的自由についての教育に関する勧告」(1974年勧告)の改定案についてヒアリングを実施中であることについて情報提供があった。今年11月のユネスコ総会で改訂案が採択される予定。

5) その他

- ・特になし。

以上